

特別講演 2

「胃がんの A,B,C,(D)リスク別検診

ABC(D)検診の現状と将来展望」

東邦大学 名誉教授／癌研有明病院 顧問
日本胃がん予知・診断・治療研究機構 理事長
三木 一正 先生

これからの胃がんの検診は、ペプシノゲン(PG)法と抗 H.pylori (Hp)検査により Hp 感染症である胃がんのリスクを A,B,C,D 群の 4 群に層別化し、継続的に内視鏡検査を実施し、早期胃がんの発見を目指すとともに、住民の 50~80%を占める Hp 未感染・無症状の A 群を胃がんの検診対象から除外し、Hp 感染が診断された B、C 群を除菌する事で胃がんの発生を予防する、2 次予防と同時に 1 次予防をも目的とした胃がんの検診である。また、浅香の新しい概念に基づく胃がん撲滅に向けたサーベイランス案の資料を配布するとともにその要旨を述べる。(1)Hp 除菌とその後の内視鏡検診で、胃がんは 10 年以内に現在の 10~20%以下に減少する。(2)PG・Hp 抗体検査によるスクリーニングと Hp 除菌は医療費を当初は押し上げるが、胃がんの治療費が激減するため、大幅な医療費削減効果を発揮する。(3)この方策で 5 年間に 15 万人の胃がん死を減少させ得る。(4)肝炎対策基本法と同様に日本政府主導で胃がん対策基本法を制定する必要がある。